

学校教育目標	<p>「夢をもち 自分たちの力で 未来を創り出す子ども」～やりぬく子 とともに生きる子～</p> <p>自らの理想とする夢の実現に向けて、豊かな体験や人との関わりを通して学び、問題解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を身に付けていくとともに、よりよい人間関係を築くための心を育み、他者と共生しながら持続可能な社会を創り出していこうとする力と態度を育てます。</p>				
	<p>創立 77 周年</p>	<p>学校長 細井 歩</p>	<p>副校長 福岡 三佐子</p>	<p>2 学期制</p>	<p>一般学級：16 個別支援学級：6</p>
学校概要	<p>児童生徒数： 516 人 主な関係校： 早瀬中学校 都田中学校</p>				

<p>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</p> <p><自分づくりに関する力></p> <p><問題発見・解決能力></p>	<p>早瀬中 ブロック</p> <p>早瀬中学校 勝田小学校 新吉田第二小学校 折本小学校</p>	<p>小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</p> <p>安心して学び合い、確かな学力を身に付けられる早瀬中ブロック</p> <p>○小中一貫教育推進会議や日頃の情報共有の場を活用し、小中学校の教職員が「子どもの側に立ち、子どもを主語にする」という学ぶ側の視点で「学力観」「指導観」等を捉え直し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が充実するような授業改善を行う。 ○年間3回設定される児童生徒交流日や個別級小中交流会を活用し、中1ギャップから生じる不登校問題や児童生徒を取り巻く今日的課題について、ICTを活用したり子どもたち自身も考える場を設けたりして、解決を目指していく。</p>
---	---	--

<p>中期取組目標</p>	<p>○「人との関わりやつながり」「対話」を大切にした教育活動を通して、社会情動的コンピテンシーを育み、子どもの学力や人間性を高めます。</p> <p>・子どもも大人も安心して、豊かに関わり合い、それぞれが自己有用感をもてる温かい空気に含まれた学校をつくります。</p> <p>・自分の住むまちに誇りを持ち、まちを大好きになる子どもが育つ、地域とのつながりを大切にしたい教育活動を推進します。</p> <p>○探究的な学びや問題解決的な学習、体験活動等を通して、自分の夢の実現につながる問題発見・解決能力を育成します。</p> <p>1年目は、協働的に学ぶ価値や楽しさを実感し、互いのよさを認め合える教育活動を推進します。</p> <p>★2年目は、自分の思いや願いをもち、進んで取り組む中で、自分の学びの状況を振り返りながら、行動を調整する力を育成します。</p> <p>3年目は、学習や生活の中で自ら解決すべき問題を見付け、試行錯誤しながら解決策を見だし、実行する力を育成します。</p>
---------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・国や市の学力・学習調査から、子どもが自分のデータを活用し学びをデザインすること、結果分析を活用し、学年ごとに育てたい力と伸ばしたい力を明確にした授業づくりを行う。 ・重点研究テーマ「多様な他者との関わりを通して、可能性を広げようとする子どもを目指して」を目指し、生活科・総合的な学習の時間を中心に、人とのつながりを大切にしたい、認め合い学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを行う。 ・習得した知識や技能を実生活と結び付けて考えられるように、ICTを効果的に活用して探究的・問題解決的な学習をさらに充実させる。
徳	人権教育・児童指導	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な問いをもって「対話を深めながら」、自分事として考え、振り返りを大切にして学びを自分の生活や生き方に結び付けられる生活総合の授業を行う。教育活動全体を通じて、意図的・計画的に道徳教育・人権教育を推進することにより、共感性や多様性を尊重する態度、省察力を育む。 ・年3回のY-Pアセスメントをもとに、必要に応じて支援検討会を学年を中心に実施する。児童の実態に合ったプログラムを積極的に実施し、学級集団の変容を見取り、学級経営に生かす。 ・年度初めの研修で児童指導に関するスタンダードを共通理解し、隔週の児童指導会議で児童の情報を全職員で共有し、児童理解に基づいた支援方法を検討する。
体	健康・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意見を生かした学校保健委員会や教科保健をより充実させ、心身ともに健康で安全な生活行動の形成を目指す。 ・地域の材を生かし、教科や給食(給食月間・給食週間等を含む)を通して、各学年の食に関する指導の目標を教科横断的に結び付け、指導の充実を図り、子どもの食への関心を高める。 ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識・技能を身に付け、様々な危険な状況においても冷静に判断し、安全に行動できる子どもを育てる。避難訓練等、実践的な理解を重視し、振り返りを大切にして意識の定着を図る。
公開	自分づくり 地域学校協働活動	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども実行委員会中心に「横浜子ども会議」の早瀬中ブロックテーマ「相互理解」の取組を、アイスブレイク(Y-P)を通して行い、自分づくり、仲間づくり等ソーシャルスキルを育む。 ・全教職員参加の学校運営協議会や地域学校協働本部を活用し、地域や社会の教育資源(ひと・もの・こと)との関わりやつながりを大切にしたい生活科・総合的な学習の時間等の単元を開発する。
	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止に向けて、子ども実行委員会で横浜子ども会議のテーマ「いじめをしない自分であるために」に取り組む。児童の声を吸い上げ、自分事として考えられるような取組を計画し、実行する。 ・毎月のいじめ防止対策委員会に加え、いじめが疑われる事案発生時には直ちに臨時開催、組織で対応して積極的にいじめを認知する。対応の流れや役割分担を随機応変に考え、担任が一人で抱え込まないよう、日頃からヒアリングシートや児童理解ノートを活用し、記録と情報共有に努めて児童の安心な学校生活を保障する。
	人材育成・組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や地域人材等を効果的に活用した研修会や授業等に教職員が主体的に取り組み、指導力等、資質能力を向上させる。 ・中期学校経営方針の各重点取組の目標を達成するために、教務会や運営委員会を核とした学校運営組織のマネジメントを図る。 ・教職員一人ひとりが役割認識をもち、状況に応じて誰もがリーダーシップを発揮することでチーム力を高め、人材育成、働き方改革につなげる。 ・ICTを活用した業務の効率化や情報の共有化を図ることで、組織的な働き方改革を進め、教職員のワークライフバランスの向上を目指す。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・UDを意識した学習環境(教室、授業)の整備について、月1回程度、学年で確認し、互いの意識を高められるようにする。 ・個に応じた学習が特別に必要な児童への支援の一つとして、また不登校支援として、スマイルルーム(特別支援教室)を活用することで、誰一人取り残さないみんなにとって安心できる学校を目指す。 ・研修を行った、校内委員会、ケース会議等で児童のアセスメント、適切な支援について共有・検討したりして、関係機関との連携を継続し個別最適な学びを目指す。
	学びDX推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを含む様々なツールを駆使し、生活科・総合的な学習の時間を中心に各教科等で身に付けた資質・能力を相互に関連付けながら、教科横断的に広げる。 ・ICT端末を効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、授業の質を高めるとともに、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究の各過程における振り返りを通して、児童の学びを深める。 ・授業実践の蓄積や日々の研修を通して、教職員のICT活用指導力向上に取り組む。 ・オンラインやアプリ等、HP更新を含め、保護者や教職員間の連携がスムーズにできるようなICT機器の活用実践を増やす。
	教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの豊かな情操を育てる花や緑の環境整備や栽培活動について計画的に実施する。 ・教科等の学習と関連させて畑を有効活用するとともに、地域との連携を生かしながら持続可能な体験的な学びを充実させる。 ・学校司書や理科支援員、ICT支援員等と連携を図りながら、学びの環境整備を行う。 ・委員会活動と運動して、校内環境づくりに子どものアイデアや意見を積極的に取り入れて「自分たちでつくる学校」の意欲を高める。
	自立した学習者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに学習を委ねる時間や場、機会を計画的に増やし、学習課題、学習方法、学習形態等を子どもが自己決定する複線型の授業を段階的に取り入れる。 ・問題解決のために、ICTを用いた効果的な他者参照や自分の学習の積み重ねや振り返り、学び方の修正が自らできるようにする。 ・子どもの自己調整力を高められるよう、学習や行事の振り返りに社会情動的コンピテンシーの視点を取り入れ、それを意識した取組を行う。併せてアンケートを行うことで客観的に変容を捉える。